

令和元年11月29日
国土交通省総合政策局

平成30年度建設副産物実態調査結果（暫定値）

平成30年度に全国の建設工事から排出された建設副産物について、再資源化及び排出量等の調査結果（暫定値）をとりまとめましたので公表いたします。

●建設副産物実態調査とは

- ・全国の建設工事や再資源化施設等を対象に、建設副産物の発生量、再資源化状況及び最終処分量等の動向に関する実態を把握するため、概ね5年ごとに実施している統計調査です。
- ・調査結果は建設リサイクルに関する諸施策の策定及びその効果の進捗状況の把握等に役立てています。

●調査結果（暫定値）の概要

再資源化及び排出量等の動向

（1）建設廃棄物

平成30年度の建設廃棄物の再資源化・縮減率は約96%となっており、前回調査（平成24年度）とほぼ横ばいです。

品目別にみると、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊は横ばいですが、建設発生木材、建設汚泥、建設混合廃棄物は向上しています。

【参考資料参照】

（2）建設発生土

平成30年度の建設発生土有効利用率は約90%となっており、前回調査（平成24年度）より向上しています。

【参考資料参照】

●調査結果（確定値）の公表時期

「確定値」につきましては現在とりまとめ中のため、出来次第、お知らせいたします。

<問い合わせ先>

総合政策局 公共事業企画調整課 インフラ情報・環境企画室 課長補佐 古堅、施工環境係長 宗光
電話：03-5253-8111(代表) 内線：24523、24525、03-5253-8271(直通)
FAX：03-5253-1551

平成30年度建設副産物実態調査結果（暫定値） 参考資料

建設副産物の再資源化等の動向 関連資料

表. 建設副産物^{注1)}の再資源化率^{注2)}や再資源化・縮減率^{注3)}の状況

	平成20年度 (A)	平成24年度 (B)	平成30年度 (暫定値) (C)
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率	98.4%	99.5%	99%
コンクリート塊の再資源化率	97.3%	99.3%	99%
建設発生木材の再資源化・縮減率 ^{注4)}	89.4%	94.4%	96%
建設汚泥の再資源化・縮減率	85.1%	85.0%	88%
建設混合廃棄物の再資源化・縮減率	39.3%	58.2%	59%
建設混合廃棄物の排出率	4.2%	3.9%	2.5%
建設廃棄物の再資源化・縮減率	93.7%	96.0%	96%
建設発生土有効利用率 ^{注5)}	71.7%	77.8%	90%

注1) 建設副産物：建設工事に伴って副次的に得られる物品であり、建設廃棄物(コンクリート塊、建設発生木材など)及び建設発生土(建設工事の際に搬出される土砂)の総称。

注2) 再資源化率：建設廃棄物として排出された量に対する再資源化された量と工事間利用された量の合計の割合。

注3) 再資源化・縮減率：建設廃棄物として排出された量に対する再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計の割合。

注4) 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

注5) 建設発生土有効利用率：建設発生土の建設工事における有効利用率の実績値について、「建設リサイクル推進計画2014」（国土交通省 平成26年9月策定）においては、平成20年度53.6%、平成24年度68.5%と算出し、これに内陸受入地の約1/3は採石場跡地復旧や農地受入等が含まれているとみなして平成30年度の目標値を設定した。平成30年度建設副産物実態調査においては、平成20年度、24年度実績値として、内陸受入地のうち、工事予定地、採石場・砂利採取跡地等復旧事業、廃棄物最終処分場（覆土としての受入）、建設発生土受入地（農地受入）を、有効利用として算出した。